

病害虫発生予察特殊報(第1号)

平成16年5月27日
神奈川県病害虫防除所長

病害虫名：ヒラズネヒゲボソゾウムシ
Phyllobius intrusus Kono

作物名：コニファー類

1 発生経過

- (1) 平成16年2月16日、藤沢市内の生産者から湘南地域農業改良普及センターへ、昨年の秋頃より鉢植えのコニファー類：ニオイヒバ‘ラインゴールド’で、一部枯れ込みが発生する旨の通報があった。2月23日に同普及センター職員が現地で被害を確認したところ、葉の枯れ込みと、コウチュウ類の幼虫による根部の食害が認められ、一部樹勢の弱った株も観察された。この際土中より蛹と根部を食害している当該幼虫を採集した。
- (2) 羽化個体を県央地域農業改良普及センターの高橋和弘氏に同定依頼したところ、ヒラズネヒゲボソゾウムシであることが確認された。
- (3) その後湘南地域農業改良普及センターで周辺のほ場を調査したところ、藤沢市内の他地域でも成虫の発生が確認された。
- (4) 4月28日に病害虫防除所職員が現地を調査したところ、最初の採集地を含む藤沢市の約20aのコニファー圃場で、新梢を食害している多数の成虫を確認し、食害により新梢先端部が褐変する被害を認めた。また、鉢植えの一部で根部の食害による枯れ込みも認めた。成虫が食害していた植物は、ニオイヒバ、コロラドビャクシン、レイランドヒノキ等であり、ニオイヒバで食害が多かった。さらに、藤沢市内の他地域のコニファー圃場でも成虫及び成虫による新梢の食害を確認した。
- (5) 本種はイブキ、ビャクシン、ヒノキ、スギ類の芽先を食害することが知られているが、農作物（鉢物）の根部への被害を確認したのは今回が初めてである。

2 形態および生態

(1) 形態

成虫は、体長5.5～6.0mmで、地色は黒色。触角は赤褐色で基節端、末端はやや濃色。脚は褐色。体は緑色の鱗片で覆われ、翅鞘会合部を除いて全体が緑色の光沢があるが、老化した個体では鱗片が脱落して黒く見える。脛節は他種に比べて幅広くて平たい。近縁種が多く、14種ほどが知られているがどれもよく似ている。

(2) 生態

成虫は4～5月にかけて発生し、ビャクシン類の芽先を食害する。産卵は土中浅くに行われ、1～5粒ずつ産下される。幼虫は土中において細根を食害し、被害が進むと樹勢が低下

する。詳しい発生経過についてはほとんど判っていないが、年1回の発生と推察される。

3 被害および寄主植物

宮城県以南のスギの新梢を食害することで知られているが、山林害虫としてはほとんど問題にならない。ビャクシン類の芽先を食害するため芽の伸長が停止し、褐色に変色して見苦しくなる。食害部はその後側芽が伸びてくるが、枝先分岐したようになって樹形を損ない、切り枝栽培ではその価値を失う。また戦後アメリカに侵入し、クロベ(ネズコ)の一種に大発生したという記録がある。

4 防除対策

本種は各種殺虫剤に対する感受性が高いと思われるので、発生した場合は当該作物(樹木類)に登録のある薬剤を散布する。



ヒラズネヒゲボソゾウムシ成虫



蛹と羽化成虫



ニオイヒバの地上部被害



ニオイヒバの根部被害

神奈川県病害虫防除所
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333
FAX 0463-59-7411
テレホンサービス 0463-58-6612
http://www.agri.pref.kanagawa.jp/boujoshu/top.asp